

toVO トヴェ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 7

No.077 - 100号まで、残り23家族、23ヶ月



NO. 077

あおもりの100家族。わたしたちのこれから。

20180811





今号（78 家族目）のご家族 ▶

川畑 富美子 さん・

須藤 美沙希 さん(長女)・川畑 裕佳 さん(次女)・川畑 萌莉 さん(三女)

撮影場所 ▶ 通称 ネット公園（青森市筒井）

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶美沙希さん「高校を卒業して専門学校へあがるまでの春休み期間で家の居間にいました。青森にしては珍しく大きな地震だなあと思っていると、だんだん大きくなって、電信柱なんかも大きく揺れていました。テレビが倒れないように押さえましたね。少し揺れがおさまった頃、母から電話があって、『電話が繋がらなくなるかもしれないから切らないで、そのまま』と言われ、それから『ドアを開けっ放しにして』とか『（当時小学校だった）妹を迎えにいて』とかいろいろと指示がありました。」

▶富美子さん「私は仕事でして。職場が国道沿いの本町のビルの2Fなので、上の階ほど揺れはしなかったんですが、国道沿いのビルのあちこちから人が飛び出してきているのを見て驚きました。子供たちに電話して、2人の無事を確認してから、『（当時小学生だった）三女を迎えに行き、3人でまとまっていなさい』と伝えました。あと、避難場所は小学校であることを確認して『もし、何かあったら小学校で落ち合おうね』と伝えました。結局、その日は普段通り夕方5時まで仕事をしてたんですよ（笑）職場から家まで1時間くらいかけて歩いて帰りましたが、その途中、三女が学童保育で一緒だった保護者留守家庭を何件か声がけしながら、無事を確認しました。」

▶裕佳さん「私も中学校を卒業し、高校へあがる時期の春休みで、姉と2人で特に何もせずに居間にいました。私はすぐにビクビクする方で、その日も地震の揺れを感じて、すぐにテーブルの下に隠れました（笑）。母から電話があり、三女を小学校に迎えに行きましたが、学校に向かう途中も余震で道路が揺れていて怖かったですね。それから、家じゅうを探してありったけの口ウソクをかき集めました。寝袋を用意して、当時、猫が2匹いたんですが、ケージに入れて、すぐに逃げれるよう準備をしました。」

▶萌莉さん「小学校で、ちょうど体育の時間でした。地震があって、体育館の上の電気も大きく揺れました。すぐに校長先生からの放送が流れて、帰りましょうということになり、家に向かいました。帰宅途中で迎えにきてくれた2人の姉と遭遇して、3人で家に戻りました。家の状況が分からなかったのも、家のことが心配で怖かったのを覚えています。」

▶富美子さん「仕事から帰ってきたら、なんか3人が普段とは違う様子、ちょっと興奮していましたね。1人だったら怖いんですけど、この子たちが3人揃っているとホントうるさくて、あの状況の中ですから、それがあある意味救われた感じはしますね。」

●震災後、何か変わったことはありますか？

- ▶裕佳さん「考え方は変わりましたね。今もちょうど『平成30年7月豪雨』で大変な被害が出ていますが、どんなに遠くに住んでいても人ごとじゃないと思えるようになりました。」
- ▶美沙希さん「災害はいつ起こるか分からないし、普段、普通に仕事に行ったり、学校に行ったりということは決して当たり前のことではないことを感じています。県外に行った友だちに対しても、特に何もなくても、元気にしているかな？と安否を気遣うようになりました。毎日を大切にという意識をするようになりました。」
- ▶萌莉さん「震災直後はすぐに逃げられるような服装で寝たりしてました。当時は小さかったのであまり意識をしていませんでしたが、今は地震の情報にはとても敏感になりました。」
- ▶富美子さん「ちょっとそこまでという距離でも携帯電話の予備バッテリーを持ち歩くようになりました。あと、震災があって、腹をくくったというところはあると思います。自分にとって大切なものは何だろうと考えて、それ以外はそんなに重要ではなくて、本当に大切なものさえあれば、他は何もなくても人間は生きていけるぞと思うようになりました。」

●ご家族の10年後のイメージは？

- ▶富美子さん「生きていれば定年ですけど、働いていると思います。好きな音楽とか趣味で繋がっている人たちとも、ずっとご縁が続いていたらイイなと思っています。」
- ▶美沙希さん「子どもが生まれて、家族が増えてたらイイなと思います。」
- ▶裕佳さん「10年後は、年齢を気にせず、今より元気に自分らしく楽しく生きていたいです。」
- ▶萌莉さん「海外に住んでみたいと思っています。外国の方の文化や考え方を学びたいと思っています。」（終）

【長くトヴォのお手伝い頂き、今年、青森を離れることとなった川畑富美子さんより。】

3.11直後、ツイッターに溢れる助けを求める声に何もできない歯がゆさと後悔がありました。tovoの活動をお手伝いさせて貰いながら、大切な人を亡くされた子供さんへわずかでも温もりが伝わりますようにと願っています。

【取材後記】

このプロジェクト始めてから7年が経過して手伝ってくれる方も随分変わりました。飽きずに長く付いてきてくださる方は、かけがえのない僕の宝です。その宝が青森を去ることになり、僕は大きな喪失感を味わっています。川畑さんは、長きにわたり、暑い夏も凍える冬も毎月毎月、青森市内の配布ご協力店にフリーペーパーを配本し続けてくれた方です。川畑さんがいたからフリーペーパーを誰かの元に届けることができました。他にも何度も何度も助けられました。感謝しかありません。新転地でも幸せでありますよう心より祈っております。（今号No.077のインタビューと撮影：小山田和正）

【寄付総額】2011年6月～2018年6月25日まで「¥6,457,266」を、あしなが育英会「あしなが東日

本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願ひ致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。